

この空の下で



地域ふれあい夏祭り

■企画:北九州市 北九州市教育委員会 北九州市人権問題啓発推進協議会
 ■製作:東映株式会社 ■アニメーション制作協力:ジェイ・シー・エフ
 ■プロデューサー:鎌田幸人 ■声の出演:宮寺智子/成田紗矢香 ほか
 ■監督:小島多美子 ■脚本:山上梨香 ■音楽制作:蟠龍寺スタジオ
 ●16ミリ版/ビデオ版(16ミリ、ビデオの字幕入りもごさいます)

誰もが輝いて生きる社会を

16ミリ版 278,250円
 ビデオ版 84,000円
 価格は税込 [C#6781]

北九州市人権啓発映画制作委員長 柿嶋 譲

「このまちには、古くから住んでおられる方、新しく来られた方、いろいろな方がおられます。それぞれの生き方があるし、好き嫌いもあるでしょう……だけど、同じ空の下こうして出会えたのだから背中を向けあわないでお互いもっと知りあいませんか」

初めての町内会長の仕事に励む、松本ひとみが夫、義之と力を合わせて立ち上げた「地域ふれあい夏祭り」での挨拶です。人と出会い、ふれあい、互いにわかり合うことの大切さを訴えています。

北九州市は**人権文化のまちづくり** ～市民一人ひとりが人権尊重の精神を正しく身に付け、人権を尊重することが市民の日常生活の中で当たり前の行動として自然に現すことができる社会をつくること～ の実現を目指しています。そして、その基本理念の一つに「共生・協創」を掲げています。自然にふれあう交流を通して、理解を深め共に生き、支え合い、そして創意を生かしながら人権文化のまちづくりに取り組もうということなのです。

今、地域コミュニティの再生が強く望まれています。地域の住民がまずふれあい、知り合うことから始め、お互いに協力し合いながら誰もが暮らしやすい地域社会を育んでいかねばならないのではないのでしょうか。

見上げる空はみんなみんな同じ／under the sky／あふれる夢はいつもいつもそばに／みんなで輝いて／生きてゆこう

エンディングがうたうように、人はみな生まれながら自由で、人としての尊厳と権利について平等で、誰もが輝いて生きる権利があるのです。そのような社会をみんなの力で一日も早く実現したいものです。

【上映時間42分】

《ポイント》

- ・ 知り合うことの大切さ
- ・ 発達障害に対する理解・支援
- ・ 家族の協力

- ・ 偏見や思い込みの怖さ
- ・ 高齢者の生きがい

制作のねらい

今、私たちは豊かな物に恵まれ、一人ひとり多様な生活ができるようになりました。しかし、そのことが人間関係の希薄さを招き、お互いの心の壁や誤解を生じさせてはいないでしょうか。

また、国際交流が盛んになることにより、地域においても国際化が進み、身近なところで私たちは、異なった文化や習慣をもつ国々の人たちともふれあう機会が増えてきました。

この映画は、ある夫婦が、町内会長の役を引き受けることによって、今まで気づかないで過ごしていた地域の人々の中にある心の壁、ひいては自分の心の壁に気づき、手探りでその心の壁を壊すために自分たちは何が出来るだろうかと考えて、行動に移していく姿を描いています。

この作品を通して、わたしたち地域に住む一人ひとりがお互いに協力し合いながら、誰もが暮らしやすいまちを創っていくこと(人権文化のまちづくり)の大切さに気づいていただければ幸いです。

あらすじ

古い住宅地に住む四人家族の松本義之に、町内会長の大役が回ってきた。義之は、町内会長であるが、実務は妻のひとみにまかせっきた。ひとみは、現在、専業主婦であるが、再就職を考えている。しかし、「専業主婦」歴が社会で評価されないことが不満でならない。また、認知症の症状が現れてきた同居の夫の母、志津の様子に不安を感じ、地域や家庭の事に理解のない夫に苛立ちを感じている。長女、理奈(中学二年)は、多感な年頃であり、家族の不安や苛立ちを敏感に感じ取っている。

そんなとき、町内で「ゴミだし」を巡るトラブルが起きた。誰かが、指定時間外の深夜にゴミを出したのだ。近所の人々がひとみに訴える。「深夜、ゴミを出したのは『ひまわり荘』に住む外国人たちではないか」と。

ひとみは、事実を確認するためアパートの大家、宋大源宅を訪問するが、逆に「どうして、外国人だからって、すぐに犯人扱いするんだ。……そういう偏見や思い込みが差別につながるんだよ」と一喝される。

宋大源は、外国籍市民で地域の住民から敬遠されていた。また、誰彼かまわず、歯に衣ぬ着せぬ言動をするので、「ガミガミじい」と呼ばれていた。この日も宋は、「子どもから目を離した」母親、洋子を厳しく叱りつける。居合わせたひとみは、同じ母親として宋の一方的な言い方に腹を立て、洋子をかばう。

そして、この一件でひとみは、洋子と親しくなる。洋子は、発達障害の傾向がある息子淳(四歳)の行動に対する周囲の無理解に苦しみ、育児ノイローゼ寸前。洋子のそんな状況を感じたひとみは、子育てに悩む仲間として協力を申し出る。

一方、義之は、元上司で典型的な会社人間だった榎戸が、地域交流センターで介護を学んでいることを妻のひとみから聞いて驚き、会いに行く。榎戸は退職後、改めて地域や家庭に目を向け、多様な人々と交流するうちに、視野が広がってきたと話す。

そんな中、「ゴミ出し」を巡るトラブルで、『ひまわり荘』に住む外国人を疑ったことが誤解だったことがわかる。そのことがきっかけで、ひとみは、宋家族が受けてきた差別や四十年前の悲しい事件について初めて知る。ひとみは、自分も含め、地域の人々の間に今も差別や偏見が存在することに気づく。ひとみと義之は、理奈とともに宋の家へ向う。宋も心を開いて、自分の思いを語る。地域の仲間としてやっと心が通い合う宋とひとみたち。

住民間の偏見や壁をなくし、育児や介護など、それぞれの悩みを分かち合い、ともに生きる「まち」を創るために、松本夫妻は町内の交流イベントを思い立つ。



東映株式会社 教育映像部
http://www.toei.co.jp/edu/

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631

関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026

広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 〒730-0013 ☎082-511-2066

高松出張所 高松市本町11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766

福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

北辰映像株式会社